

# 保健医療学研究科

1年

---

宮下 和久

配当年次

必修 ● 前期・2単位（講義）

**【目的】** 少子高齢化、生活環境の著しい変化により疾病構造は、ますます多様化かつ複雑化している。一方、医療技術の高度化により、保健・医療・福祉のサービスシステムは、多様化かつ高度化している。このような状況のもと、高度医療人の育成の必要性が高まっている。その基本資質として、保健医療分野での幅広い視野をもち、深い基礎医学知識を備えた医療人の育成をめざす。

**【到達目標】** 人々の心身の健康や疾病・障害を身体的、精神的、社会的側面で総合的に捉えるとともに、それらの問題に対して保健・医療・福祉の観点から社会的にどのように対処するかを概説できる。

**【授業計画】**

1. 保健医療学の概念をめぐって
2. ライフスタイルと生涯を通じての健康（1）
3. ライフスタイルと生涯を通じての健康（2）
4. 環境・労働と健康
5. ヘルスプロモーションの概念をめぐって
6. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（1）
7. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（2）
8. ヘルスプロモーションからみた保健・医療の課題（3）
9. 医療・保健・福祉の動向（1）
10. 医療・保健・福祉の動向（2）
11. 医療・保健・福祉の動向（3）
12. 医療保険・介護保険制度
13. 国際保健
14. 保健・医療と関連法規
15. まとめ

**【自己学習】** 授業計画に沿って、参考図書等の関連領域を通読する。

**【履修上の注意】** 特になし。

**【試験・成績評価】** 試験およびレポート成績により評価する

◆ テキスト 公衆衛生学 四訂版 培風館

◆ 参考図書 国民衛生の動向 厚生統計協会  
国民の福祉の動向 厚生統計協会

武田 眞太郎

配当年次

必修 ● 前期・2単位（講義）

**【目的】** 病苦からの解放をめざす医療は、倫理に対する最強の実践的手段であった。しかし、毒ガスや生物兵器、生体実験などが社会問題となり、生体実験を告発した「ニュルンベルク綱領」に端を発した生命倫理の課題は、医療の場における患者の藩<sup>1</sup>や先進医療の在り方などへと広がった。こうしたなかで、関係者一人ひとりが、妥当な価値観を形成し、発展させる能力を身につけることが求められる。

**【到達目標】** 現実には、一方に善である医療技術が、他方には悪になる場面がある。しかも、価値観を客観的に統一することは困難である。これには、学際的な対応が必要で、次の4領域での対応が求められる。①理論的な生命倫理の領域②日々の医療行為における道徳的な判断にかかわる領域③理論と具体例への判断とをつなぐ法律や政策倫理指針などを考える領域④歴史的、文化的な流れから理解しようとする領域。そこで本概論では、とくに②と③の領域について、医療関係の専門的判断と患者の判断をどう調整するか、治療の有効性と患者の自己決定が相反したときの対応などの視点も加味して、自らで判断できる基礎的能力を身につけるよう努める。

**【授業計画】**

1. 医療法にみられる基本理念、「生命の尊重」と「個人の尊厳の保持」をめぐって
2. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の基本的な考え
3. インドでの「代理出産」と生まれてくる子どもの権利
4. 「卵子提供」による不妊治療の実態と子どもの褥<sup>1</sup>
5. 万波医師の「病気腎移植」一治療研究の進め方、倫理審査委員会の役割
6. 射水市民病院「呼吸器外し」事件一倫理審査委員会の役割
7. 川崎協同病院「安楽死」事件一チーム医療の在り方を考える
8. 北九州八幡東病院の「認知症患者虐待」事件一チーム医療の在り方
9. 「エホバの証人」の輸血拒否一インホームド・コンセントの限界
10. 「赤ちゃんポスト」の功罪と社会福祉の在り方
11. 堺市の「全盲患者置き去り」事件一一保健医療福祉制度のかかわり
12. 医師による「移植臓器の売買」一臓器移植法とのかかわり
13. 「大野病院事件」一一医療と司法の立場
14. 医薬品ネット販売解禁をめぐって、国民の生命を守る立場から
15. 「国家戦略特区」の中での医療と倫理

**【自己学習】** 生命倫理に係る社会問題に関心を持ち、各自の価値観によって判断するよう心がける。

**【履修上の注意】** 事例検討を主にすすめるので、積極的に発言し、討議に参加すること。

**【試験・成績評価】** 受講態度、討議内容及びレポートについて総合評価する。

◆ テキスト 特になし。

◆ 参考図書 適宜紹介する。

必修 ● 前期・2単位（講義）

**【目的】** 現代医学は、高度先進医療として確固たる科学的基盤を持ち、疾病の原因追究やリスクの集団の管理は疫学的手法により、また、医療効果の判定はEBM（Evidence-based medicine）に基づいてなされている。保健医療分野の中心には、現代医学があり、その周辺には、我が国では、伝統的に国民に支持されてきた鍼灸・漢方を中心とする東洋医学などの補完代替医療がある。しかし、これらは未だ科学的評価を十分に受けていない。本講では、疫学・保健統計学の基礎を学び、保健医療従事者として必要な疫学的思考、臨床効果の判定や実験計画の作成などの統計的手法が身に付くよう指導する。

**【到達目標】** 医療分野における研究論文を読み、その内容について理解できるようになる。

疫学：近藤哲哉

- 【授業計画】**
1. 「疫学とは？」：集団における疾患の分布と頻度に注目する基礎医学で、人間集団における疾患パターンを調べる。
  2. 研究のデザインと因果関係
  3. 記述疫学 分析疫学 実験疫学
  4. 因果関係の判定基準
  5. 結果変数の種類 疫学調査における誤差

EBM：坂口俊二

6. EBM とその実践
7. 医療系研究論文の読み方
8. 臨床研究・疫学研究のための国際的指針
9. 論文のまとめ方①
10. 論文のまとめ方②

保健統計学：山本博司

11. 統計学と推計学
12. 代表値と統計量
13. 正規分布と標準偏差
14. 正規分布する二つの集団の平均値の比較
15. 統計学的検定

**【自己学習】** 図書館などで参考図書や各担当教員が適宜紹介する書籍などを参照して講義内容の理解を深める。

**【履修上の注意】** 講義は3名の担当教員が4-5コマを担当する形式で進める。  
各担当者のテーマを理解し、その内容習得に努めること。

**【試験・成績評価】** 各担当教員からのレポート課題と出欠状況などを勘案し総合的に評価する。

◆ テキスト 指定せず、プリントなどを配布する。

◆ 参考図書

1. 岸玲子, 古野純典, 大前和幸, 他編: NEW 予防医学・公衆衛生学. 南江堂, 東京, 2006
2. 柳川洋, 坂田清美: 疫学マニュアル. 第6版. 南山堂, 東京, 2003

その他各担当教員が適宜紹介する。

東家 一雄

配当年次

必修 ● 後期・2単位（講義）

- 【目的】** 多細胞生物が示す生命現象は、身体を構成する細胞一つひとつの活動、すなわち増殖や分化、代謝、分泌、情報交換、運動などを基礎として成り立っている。我々ヒトの場合には、個体の全身を構成する約60兆個の細胞の活動が、それぞれの分布する組織や臓器といった体内環境下において適正に制御され、システムとして統合されることによって生存が保証されている。
- 本講義では、このような細胞を基本とする生命のあり方をマクロの視点から考察することから始め、次第に生命の基本単位構造としての細胞へ焦点を移していく。特に、高等動物の細胞内部に備わった多様な細胞小器官のはたらきを考えることで細胞のもつ精緻なしくみとその合理性を認識し、生命の成り立ちとその基本単位に対する意識や理解を深めることを目指す。
- 【到達目標】** 我々の身体を構成する細胞内部の環境と、そこで普遍的に営まれている機能についてイメージを持ち、生命現象の理解に対して機能形態学的視点からアプローチすることができるようになること。
- 【授業計画】**
1. 細胞に関する基本的理解（1）
  2. 細胞に関する基本的理解（2）
  3. 細胞に関する基本的理解（3）
  4. 細胞の観察作業
  5. 細胞小器官（1）
  6. 細胞小器官（2）
  7. 細胞小器官（3）
  8. 細胞小器官（4）
  9. 細胞小器官（5）
  10. 細胞小器官（6）
  11. 細胞小器官（7）
  12. 細胞小器官（8）
  13. 細胞間相互作用（1）
  14. 細胞間相互作用（2）
  15. まとめ
- 【自己学習】** 細胞に関するトピックは科学ニュースの形でメディアに取り上げられる機会が多い。日頃からそれらに目を配り、生命科学の基礎分野全般に対する興味と関心を持ち続けるようにすること。
- 【履修上の注意】** 新しい知識を吸収して科学的思考の幅を広げようという意欲を持って受講すること。
- 【試験・成績評価】** 授業で求める課題の提出（80%）、授業参加への主体性（20%）に基づき、総合的に評価する。

◆ テキスト 指定しない。毎回の授業で資料を配付する。

◆ 参考図書 『標準細胞生物学』（石川春律他編、医学書院）  
『Essential 細胞生物学』（中村圭子他監訳、南江堂）

梶葉 均

配当年次

必修 ● 後期・2単位（講義）

**【目的】** 病院やクリニックを訪れる患者の多くは痛みを訴える。これらの患者にとって痛みは深刻で複雑な問題であり、このことは様々な医療分野において共通していることである。コメディカルスタッフのリーダーとして、あるいはこの分野で研究を志す者として、痛覚の本質を正しく理解し、未知の領域の痛みを洞察する力を養うことは重要である。現在、生理的な痛みの理解は進んできたが、病的な痛みである慢性痛の研究は発展途上の段階である。この生体情報学概論の授業では、痛みの一般的性質や生理学的意義、神経系における痛みの受容や伝達の仕組みについて講述する。

**【到達目標】** 適宜、資料を配付するので、その内容について理解することを目標にして下さい。

**【授業計画】**

1. 痛み研究の歴史
2. 痛みの一般的性質
3. 生理的な痛みと病的な痛み
4. 痛みの感覚的側面と情動的側面
5. 急性痛と慢性痛
6. 体性痛と内臓痛
7. 侵害刺激と非侵害刺激
8. 侵害受容ニューロン
9. ポリモーダル侵害受容器
10. 痛みの伝導路と痛みの認知・学習
11. 神経因性疼痛
12. 内因性鎮痛機構 a. オピオイドペプチド
13. 内因性鎮痛機構 b. 下行性疼痛抑制系
14. 内因性鎮痛機構 c. その他の鎮痛機構
15. 総括

**【自己学習】** 事前に配付した資料を十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。

**【履修上の注意】** 講義の内容を十分に理解できるように、予習・復習を十分に行ってください。

**【試験・成績評価】** 試験 50%・平常点 50%にて評価します。

---

◆ テキスト 適宜、資料を配付します。

◆ 参考図書 「痛みと鎮痛の基礎知識 上・下」小山なつ 著、技術評論社出版

---

伊藤 俊治

配当年次

必修 ● 後期・2単位（講義）

**【目的】** 疾患の発生を含め、生体におけるあらゆる現象は、化学反応と細胞活動による情報処理であって、そこには単純な因果関係の連鎖へ還元される「メカニズム」すなわち「論理」が存在する。ライフサイエンスと称される生物・医学系の緒科学の目的はこの「論理」の規則を明らかにすることにある。疾患の研究も、疾患における物質と化学反応の「論理」を解明、コントロールすることにある。

本講義においては、実際に行われている研究を題材に、こういった視点から考え、どのような「論理」が働いているのか、それを明らかにするには、どのような道筋があり、どのような手段がふさわしいのかについて討論する。また特に新しい分子生物学的・分子病理学的な解析方法について原理や応用法を含め、紹介・解説する。

**【到達目標】** 基本的な分子病理学的研究方法とその原理について理解し、生理現象や疾患発生の背後にあるメカニズムを解明するための科学的方法論を身につける。またそれを自分の研究計画に反映させ、また論理的に説明する能力を身につけることを目的とする。

**【授業計画】**

1. 分子生物学的研究方法論
2. 組織学的研究方法論
3. 細胞生物学的研究方法論
4. 学生による発表と討論
5. 学生による発表と討論
6. 学生による発表と討論
7. 学生による発表と討論
8. 学生による発表と討論
9. 学生による発表と討論
10. 学生による発表と討論
11. 学生による発表と討論
12. 学生による発表と討論
13. 統計学によるデータ解析
14. 皮膚科学における研究の実例
15. 運動器研究における実例

**【自己学習】** 担当のテーマについて十分自己学習し、発表に備える。

**【履修上の注意】** 発表と討論を主体にするため、出席・参加が重要である。討論に積極的に参加する必要がある。また論文抄読は基本的に英文論文を用いる。

**【試験・成績評価】** 講義中の発表、討論における発言から総合的に判断する。

◆ テキスト 特に指定しない。（適宜配布資料を用いる）

◆ 参考図書 特に指定しない。必要に応じて紹介する。

必修 ● 通年・4単位（講義）

- 【目的】** 我が国では高齢社会の中で、肥満、糖尿病、高血圧などを合併するメタボリックシンドロームや加齢に伴うアルツハイマー病、パーキンソン病など老年期疾患が急増し、一方では、分子生物学的手法による各種疾患の原因遺伝子の同定、メタボリックシンドロームにおける各種ホルモンの発見、脳の老化への酸化的ストレスやアミロイド沈着の関与など新しい知見が日々集積されている。本講では、そうした現代医学的知識を基盤に保健医療人として、患者に対する治療手技の適否を判断できる能力や研究者としての基礎能力を養成することを目的とする。
- 【到達目標】** 各種疾患の病態を的確に理解する総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。
- 【授業計画】** 以下の項目についてオムニバス方式で自主的な文献検索と発表による討論形式、ならびに抄読会形式で講義を進める。
- 第1～10講（畑村）：慢性腎不全を誘発する要因、すなわち高血糖、高血圧、高脂血症がどのように腎臓機能および組織に影響を及ぼし、どのような機序で腎不全となるのか
- 第11～20講（紀平）：上記した老年期変性疾患の神経病理、病態および最近の分子生物学的知見について
- 第21～30講（津田）：肥満、高血圧などを合併するメタボリックシンドロームの病態生理と肥満関連内分泌因子による調節機構について
- 【成績評価】** 各教員の講義において、試験、レポート、出席状況等を評価し、総合的に判断する。
- 【自己学習】** 指定されたテーマや抄読する論文についてよく予習しておくこと。
- 【履修上の注意】** 本研究の遂行には内科的、特に循環器病の知識を十分に持っていることが望ましい。また、文献検索では英文論文の熟読が必須であり、相応の英語力を養っておくこと。

◆ テキスト プリントや関連領域の文献等を適時配布する。

◆ 参考図書 講義内容に応じて、その都度指定する。

# 臨床鍼灸学実習

1

若山 育郎 王 財源 吉備 登 山本 博司

配当年次

坂口 俊二 谷 万喜子 木村 研一

選択 後期・2単位(実習)

**【目的】** この科目では高度な鍼灸臨床能力をつけるため、本学附属診療所の医師により鍼灸治療の適応症であると判断された外来患者を対象として、附属鍼灸治療所において鍼灸師である指導教員の下で以下の実習を行う。

1. 東洋医学的な診察・診断法（鍼灸治療の適否の判断を含む）
2. 鍼灸治療方法（処方を含む）
3. 鍼および灸による治療実践（医療過誤防止を含む）
4. 治療効果の評価法

**【到達目標】** 教員の治療のシミュレーションとともに、自分自身で治療法が想定できる。

**【授業計画】** 月曜日～金曜日での実習を選択する場合は後期に、土曜日の実習を選択する場合は第1,3土曜日のみとなるため、通年で実施するので注意すること。

**【自己学習】** 実習日に担当した患者の実習記録ノートを整理し、教員の治療のシミュレーションを行う。

**【履修上の注意】** 医療に携わる者としての自覚と誇りを持って本実習に臨むこと。なお、学生各自が治療の全般に関わる実習記録を記載できる記録ノートを必ず携帯すること。

**【試験・成績評価】** 実習に臨む姿勢、臨床技術、レポート課題などで総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 適宜紹介する。

---

選択 後期・2単位(実習)

**【目的】** 身体運動をより深く理解するために、関西医療大学附属診療所 リハビリテーション科において運動療法実習を実施する。運動療法をおこなう疾患には、運動器障害、神経障害、内部障害など多岐にわたる。本実習では、特に運動器障害、神経障害を呈する疾患の理学療法を中心に実習する。具体的には、健常者の身体機能と患者の身体機能の違いを、治療者による動作観察・分析によって明らかにできることを目標とする。患者様の動作特徴を明確にすることで患者様の問題点を把握することができるため、次の段階として、その問題点に対応した理学療法を学ぶ。理学療法に関しては、様々なアプローチを実習するが、本学独自のアプローチである臨床動作促進法、経穴刺激理学療法の臨床応用を経験することによって、患者様への治療効果を確認する。

**【到達目標】** 実習を通して、身体運動の評価、運動療法を的確に行えることを目標にする。

**【授業計画】**

1. 身体機能の動作観察・分析実習	1
2. 身体機能の動作観察・分析実習	2
3. 身体機能の動作観察・分析実習	3
4. 身体機能の動作観察・分析実習	4
5. 身体機能の動作観察・分析実習	5
6. 身体機能に対する運動療法実習	1
7. 身体機能に対する運動療法実習	2
8. 身体機能に対する運動療法実習	3
9. 身体機能に対する運動療法実習	4
10. 身体機能に対する運動療法実習	5
11. 身体機能に対する運動療法の効果・判定	1
12. 身体機能に対する運動療法の効果・判定	2
13. 身体機能に対する運動療法の効果・判定	3
14. 身体機能の評価、運動療法、効果判定に関するプレゼンテーション	1
15. 身体機能の評価、運動療法、効果判定に関するプレゼンテーション	2

**【自己学習】** 動作分析が中心となる実習であるため、解剖学、運動学の知識を再度確認してほしい。

**【履修上の注意】** 積極的に出席し、正しい知識と技術を獲得してほしい。

**【試験・成績評価】** 実習における総合評価（評価能力、治療技術、効果判定能力など）80%、平常点20%

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 特になし

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 近年、循環器疾患、脳血管障害が死亡原因の上位を占めているが、その最大要因は動脈硬化病変に起因する vascular damage である。動脈硬化病変は高血圧のみならず、多くの内因性因子によって影響を受けるが、その調節機構には未だ不明な点が多い。本研究では動脈硬化病変とその形成における調節機序を検討するため、特に肥満関連内分泌因子の動脈硬化における役割と、その臨床的意義について検討する。さらに適切な治療によってこれらの調節機構がいかに変化するかについても詳細な考察を加えてゆきたい。

**【到達目標】** 上記の内科学的研究テーマに的確に対応できる総合的な能力を持った医療人の養成を目的とする。

**【授業計画】** 各自の研究テーマを検討、決定し、まずそのテーマの関連論文の文献的検索を行う。次に研究計画を作成し、速やかに研究を実施する。そしてデータの解析と検証を行い、必要があれば、さらに新たな研究を実施する。最終的には研究成績の発表と修士論文の作成を行う。

**【成績評価】** 日々の研究への取り組みの態度、関連文献の読解力、ならびに修士論文の内容によって行う。

**【自己学習】** 研究テーマに関連する文献の検索、整理、内容をよく把握すること。

**【履修上の注意】** 本研究の遂行には内科的、特に循環器病の知識を十分に持っていることが望ましい。また、文献検索では英文論文の熟読が必須であり、成績の発表、論文作成も英文で行うことが研究者としての基本姿勢であるため、相応の英語力を養っておくこと。

---

◆ テキスト プリントや関連領域の文献等を適時配布する。

◆ 参考図書 研究テーマに応じて、その都度指定する。

---

鈴木 俊明

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

## 【目 的】

この特別研究では以下の内容から興味のあるテーマについて研究をおこなう。

1. 理学療法と鍼灸医学の考えを組み合わせた新しい治療法である、経穴刺激理学療法の応用と、その効果に関する神経生理学的研究を動作筋電図、誘発筋電図を用いておこなう。
2. 運動イメージの効果に関する神経生理学的研究を誘発筋電図、誘発脳波にて研究する。
3. 理学療法の新しい治療法の開発に関する治療効果を神経生理学的に検討する。
4. 鍼刺激および代替医療の治療効果を神経生理学的に検討する。

## 【到達目標】

最終的な目標は、研究内容を確立させ、プレ中間発表、中間発表、そして公開発表で発表すること、そして、その内容を修士論文としてまとめることである。また、それ以外にも学生のレベルに応じて、学術団体での研究発表、学術雑誌への論文投稿を勧める。

## 【授業計画】

研究指導は、以下の流れでおこなう。

1. 研究テーマの決定
2. 研究方法論の検討
3. プレ実験での結果検討
4. 実験中のデータの検討
5. 結果と考察の検討
6. プレゼンテーション
7. 論文作成
8. 全体のまとめ

なお、当然ではあるが、研究方法論が決定されたときに、関西医療大学 倫理委員会へ倫理審査書類を提出し、承認後に研究を開始する。

## 【自己学習】

興味あるテーマに関する先行研究の論文は事前に集めて、熟読していただきたい

## 【履修上の注意】

積極的に研究活動をおこない、様々な角度から研究結果を考察できる視点を身につけてほしい

## 【試験・成績評価】

大学での発表会でのプレゼンテーション、修士論文作成までの取り組みなどを総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 特になし

---

五十嵐 純

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 体力学系の論文を精読し、その内容について深く理解し、研究に必要な概念と研究方法について学び、自ら研究計画を立案し遂行できるようになる。

**【到達目標】** 体力学分野の研究に必要な概念と研究方法について学び、その上で研究を行い論文執筆につなげる。

**【授業計画】**

1. 体力学について学ぶ
2. 体力学分野の研究方法
3. 人を対象とした研究
4. 動物を対象とした研究
5. 疫学研究
6. 発育発達と健康・体力
7. 様々な歩行方法と生体に及ぼす影響について

**【自己学習】** 体力学に関する本や論文を積極的に読んでおくこと。

**【履修上の注意】** 目的意識を持ち、積極的に学ぶ姿勢を持って勉学に望むこと。

**【試験・成績評価】** 研究への取り組み、研究発表や論文の内容で評価。

---

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 必要に応じて紹介する。

---

榎田 高士

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 医療における患者への安全確保の重要性はいうまでもない。本研究では鍼灸師・柔道整復師が関係する領域の有害事象を多方面から分析、安全な施術（治療所・施術所・在宅および介護現場を含む）におけるリスク管理について検討を行う。

**【到達目標】** 施術に関して起こる可能性のある有害事象・リスクを収集し、問題点を分析、その防止対策を検討・実施して安全管理ができる。

**【授業計画】** 研究の流れを示す。

1. 研究のための情報収集（論文調査・アンケート調査など）
2. 研究計画を立案
3. 予備研究の実施
4. 研究実施
5. 研究データの整理と分析
6. 研究成果のまとめ（発表・論文）

**【自己学習】** 問題点となる有害事象やリスクに関する情報収集を積極的に・自主的に行うこと。

**【履修上の注意】** 研究課題を決定するにあたり、研究は施術現場で行うことが多く、協力をお願いする施術者や施術場所さらに時間的な制約もでてくるので十分配慮して研究課題を決定すること。

**【試験・成績評価】** 研究の取り組み方、研究発表および研究論文によって総合的に評価する。

---

◆ テキスト 関連領域の論文検索による資料。

◆ 参考図書 特に指定しない。適宜、研究テーマにより紹介する。

---

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 文献を中心とした研究である。とくに「原典」を深めるという研究の基本をしっかりと身に付けて、習慣化することが必要である。時代、史実考証については勿論のこと、その研究対象は多岐に広がり、学問的な考証を行うための忍耐力が問われる。学生の中には、学者の解釈を読んだことで、その原典を理解できたという、錯覚に陥るケースがある。これは解釈の受け売りであり、学問が直面し続けている根本課題を追求したことにはならない。本研究の基本は中国医書や哲学書を用いて、「気」による養生思想を『黄帝内経』等々の医書より学び取り、現代医療における伝統医療文化の再構築を目的としている。

**【到達目標】** 『黄帝内経』に説かれた人体に本源的に備わる生命の尊厳性を、他文献との整合性を鑑みながら考察し、中国伝統医学の本質に流れる、哲学と医学の融合により構築された「気」の思想等について、学生自身が文献を深く読み解き、分析し、批判的思考力を伸ばす。その知識を研究成果に結びつける。

**【授業計画】** 各学科共通で医書『重廣補注黄帝内経素問』（顧從徳影宋刻二十四卷本）を中心に、その周辺の医書を用いて研究を進める。『黄帝内経』に載る蔵象（蔵府学説）には、『黄帝内経』独自の医学理論が形成されており、これらは、東洋医学理論の中核を成すものである。故に、中国伝統医療文化より発生した、生理学、病理学、養生学および治療学を論じ、哲学を基盤とする身体観を示唆できる研究者の育成を本研究の目標としたい。

さらに修士論文の客観性を保つために、先行文献や資料の収集など、文献学的根拠に基づいた修士論文の作成を指導する。また、他研究機関の討論会に参加して、より専門性の高い意見や指導を求める。

**【自己学習】**

1. 文献学は理系研究のように定量化を目的としたものではない。文献検証能力が必要とする学問である。
2. 文献検証のため文献を入手する手段や方法については、他大学や各地の研究機関を巡り、先行文献を初めとする諸々の資料を直接申請するため、修士2年という期間内での資料収集の研究作業には、限られた時間と、忍耐力が求められる。
3. 研究内容に準じて、本学図書館及び他大学の図書館を使用すること。
4. 討論会形式で行うため、資料を十分に準備して参加すること。

**【履修上の注意】** 版本の検証を迅速化するために、下記の検索システムを導入しているが、本研究では直接、版本を確認することを義務づけているので、各々が他大学の蔵書を確認して、研究、調査に向かうこと。

『四部叢刊』『歴代漢方名作選』『歴代鍼灸名作選』『正統道蔵』（繁体字図文版・凱希メディアサービス）

『四庫全書』文淵閣本（電子版・漢字情報システム）

**【試験・成績評価】** 研究状況、修士論文の内容などを鑑みて総合的な評価する。

◆ テキスト 授業中に適宜指示する。

◆ 参考図書 中華再造善本『重廣補注黄帝内経素問』国家図書館出版社、2011年  
永榕等撰『四庫全書総目』中華書局、1965年  
曹洪欣編『海外回帰中医古籍善本集粹』（日本独立行政法人国立公文書館蔵本影印）中医古籍出版社、2005年  
王瑞祥主編『中国古医籍書目提要』上・下巻、中医古籍出版社、2009年  
倪其心著、橋本秀美、鈴木かおり訳『校勘学講義——中国古典文献の読み方——』アルヒーフ、2003年  
浦山さか『中国医書の文献学的研究』汲古書院、2014年  
王財源『わかりやすい臨床中医臟腑学』第3版、医歯薬出版、2013年

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 機器分析の方法の一つである高速液体クロマトグラフを主に用い、生薬成分等の測定、成分分取を目的とした研究をおこないます。

**【到達目標】** 試料中に存在する物質の量や濃度の決定を目的とする分析化学の基本的な原理を理解し、種々のクロマトグラフィーの手法を修得、応用、利用することができることを目標とします。

**【授業計画】**

1. テーマの決定
2. 分析機器の取り扱い、原理の理解。
3. 各種実験
4. 実験データの解析とプレゼンテーション
5. 論文作成

**【自己学習】** 積極的に論文を読むこと。

**【履修上の注意】** 天然有機化合物の基礎的な知識を補う必要がある場合は、テキストを指定するので自己学習すること。実験日は必ず毎回実験ノートをつけ、確認印をもらいにくること。

**【試験・成績評価】** 研究論文作成を含め総合的に判断します。

---

◆ テキスト 研究の進行に応じて紹介します。

◆ 参考図書 研究の進行に応じて紹介します。

---

郭 哲次

配当年次

必修 ● 6単位 (演習)

**【目的】** 近年のストレス社会においては心身・精神疾患患者が増加しているといわれており、特に高齢者ではいくつかの疾患を併せ持つ複合疾患がしばしば見られる。身体疾患を有する高齢者では、抑うつ、不安、認知症など、さまざまな精神症状の合併がみられ、また、心身症的な枠組みでとらえることのできる患者も少なくない。しかし現状ではその実態が十分に把握されているとは言えない。このためこうした領域の関連文献の収集に加えて、さまざまな治療を受けている高齢者や心身症に対して、心理テスト精神生理学的手法を用いて、より適切な治療実践を目指した心身医学、精神医学的、側面からのアプローチ可能性を探る。実際面では各自のテーマに沿った関連文献を発表し検討、またデータの収集を行い、2年時までの修士論文の完成を最終目標として、各自の研究テーマとその内容について検討し明確化してゆく。

**【到達目標】** 研究目的にそって、先行研究等を参考にしながら、達成可能な研究計画を立案し、研究資料及びデータ収集を行い、科学的に整理しながら、慎重に研究を遂行することが出来る。研究により得られた結果を、心身医学・精神医学および脳科学的な基盤から、その意義を考察することが出来る。以上を遂行することにより、首尾一貫した修士論文を完成することが出来る。

**【授業計画】** 初回のオリエンテーションに基づき、各自の研究テーマについて検討・決定してゆき、そのテーマについて発表する。関連文献の検討を行い、各自の研究に対する有用性を検討するため発表・討論を行う。毎回、発表のために海外論文を中心とした文献検索を行い、レジュメを作成する。自己の研究に対する中間発表を重ねたのち、最終段階では修士論文に向けて詳細な検討会を行ってゆく。

**【自己学習】** 毎回、研究目的に合致した海外論文（国内論文を含む）を、収集し、学習会において発表の目的で、一件あるいは数件の論文紹介のために、あらかじめ読んでまとめる。抄読会、検討会終了後は、その要点を整理し、ファイルを作成してゆく。実験等開始後は、その準備、計画を毎回日付にをいれて記載し、その日行った結果についても、何を行ったか、なぜうまく行かなかったかなどもれなく記載してゆくこととする。

**【履修上の注意】** 十分な準備を行うこと。原則的に欠席は認めない。  
特に学習・研究に対する熱意が必要。

**【試験・成績評価】** 発表内容・方法、研究への取り込みを総合的に評価する。

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 随時紹介

**【目的】** 我々の生体を傷害させる、あるいは傷害させる可能性のある侵害刺激は、高閾値機械受容器もしくはポリモーダル侵害受容器で電気信号に変換される。この侵害情報を司る電気信号は脊髄後角や三叉神経脊髄路核において一次感覚ニューロンから二次感覚ニューロンに伝達され、更に高次の中樞へと伝わることになる。同時にこの脊髄後角や三叉神経脊髄路核における侵害情報の伝達では、介在ニューロンや脳幹からの下行性ニューロンにより修飾を受けることになる。しかしながら、この領域における局所神経回路や神経機構についてはほとんど知られていないのが現状である。そこで特別研究では、脊髄後角ニューロンの形態学および電気生理学特性について検討し、脊髄後角での情報処理機構や下行性抑制ニューロンの意義について考察を深める。

**【到達目標】** 脳幹からの下行性ニューロンには、伝達物質としてセロトニンやノルアドレナリンが含まれている。一方、侵害受容性の一次感覚ニューロンにはサブスタンス P (SP) やカルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) を神経修飾物質として含有する。これらの物質を手がかりに脊髄後角に位置するニューロンを電気生理学あるいは形態学的に解析し、疼痛制御に関わる神経メカニズムについて言及する。

**【授業計画】** 上で述べた「目的」および「到達目標」を達成するため、ニューロンの膜電位特性を検討するパッチクランプ法、遺伝子発現やタンパク質の局在を検討する in situ ハイブリダイゼーション法等の形態学的手法を用いて動物実験を進めることになる。まずはこれらの実験手法の理解と手技を確立し、データの取得および解析、問題点の抽出や研究デザインの設計などについて指導する。また、論文の読み方、書き方、論文の作成などについても適宜、教授する。

**【自己学習】** 修士論文を作成するにあたり必要な参考文献を紹介するので、それらを勉強していただく。

**【履修上の注意】** 全ての研究に該当することではあるが、この特別研究は答えのない未知の領域に踏み込み、そこで答えを導き出す作業をしなければならない。この作業を続けるにはそれ相応の覚悟が必要である。このことを自覚した上で履修していただきたい。

**【試験・成績評価】** 研究状況、修士論文の内容などを総合的な評価する。

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 カンデル神経科学 Eric R. Kandel 他著 メディカル・サイエンス・インターナショナル

# 特別研究

金井 成行

配当年次

1 2

必修 ● 6単位（演習）

- 【目的】** 運動器の病的状態や各種コンディショニング／治療法に対する客観的／科学的評価を行う事を目的とする。
- 【到達目標】** 上記に対して、確固たるエビデンスをもって評価することを目標とする。
- 【授業計画】** 対象学生に対して随時指示する。学会・研究会発表や論文作成など指導する。
- 【自己学習】** 対象となる領域に関して、論文抄読や学会／研究会参加も指導する。
- 【履修上の注意】** 対象学生に対して随時指導する。
- 【試験・成績評価】** 発表内容などを総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 特に指定しない。

---

紀平 為子

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

- 【目的】** 加齢に伴って発症する疾患、特に認知症の発症関連要因を明らかにする。  
神経変性疾患、特にパーキンソン病、Alzheimer病、筋萎縮性側索硬化症などでは、加齢とともに発症頻度が増加することが知られている。その発症関連要因として遺伝的要因に加え、加齢に伴う様々な生物学的変化とともに長期にわたる環境要因や生活・食習慣に関連する要因の蓄積、特に酸化ストレスの増大による神経細胞の障害が推察されている。本研究では加齢に伴って発症する認知症の発症関連要因を解明することを目的として、地域住民を対象にフィールドワークを通して検討する。
- 【到達目標】** 加齢に関連して発症する認知症の発症頻度と発症関連要因について文献を渉猟し、本邦での特徴を理解する。さらにフィールドワークを通して認知機能低下を来す関連要因として、酸化ストレスを増大する環境・生活要因を明らかにする。
- 【授業計画】**
1. 神経変性疾患、特に筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、アルツハイマー病をはじめとする認知症について臨床的・病理学的特徴の解説
  2. 対象とする疾患の病態説明と文献収集および解析方法の解説
  3. 実験計画の立案
  4. フィールドワークにおける住民への接遇上重要事項の説明
  5. 生体サンプル採取や取り扱い上の注意点の説明
  6. 生体試料の分析とそのデータ解析
  7. 実験データの解釈について文献検索とプレゼンテーション
  8. 修士論文の作成
- 【自己学習】** 研究テーマについて十分な先行研究の文献検索を行い、自主的に研究計画をたて、ディスカッションを行うこと。それに基づき、研究実施上の問題点を抽出し、必要に応じて研究計画の見直しを行う。
- 【履修上の注意】** 計画段階では、自主的な勉強・研究を主眼におき斬新な発想を歓迎するが、指導教官に計画遂行状況につき定期的に報告し、指導を受けること。
- 【試験・成績評価】** 修士論文の内容、普段の研究への取り組みで評価する。

◆ テキスト 関連領域の論文などの検索による。

◆ 参考図書 特に指定しない。適宜、研究テーマにより紹介する。

吉備 登

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 睡眠障害における鍼灸治療に対して、その効果の有無を確認することを目的とする。

**【到達目標】** 実験計画を立て、実験をおこない、そのデータを分析・解釈をおこない修士論文を作成すること。

**【授業計画】**

1. 文献検索について
2. 睡眠障害について
3. 睡眠評価装置について
4. 実験計画について
5. 実験の実施上の注意
6. データの収集および分析について
7. 研究発表の仕方について
8. 研究論文の作成について

**【自己学習】** EBM についてあらかじめ学習しておくこと。

**【履修上の注意】** 日夜、まじめにコツコツと実験に取り組む意欲が重要である。

**【試験・成績評価】** 普段の実験に取り組む態度やプレゼンテーションおよび研究論文など総合的に判断する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 「シングル・ケース研究法」(勁草書房) 岩本隆茂・川俣甲子夫

---

必修 ● 6単位（演習）

- 【目的】** まま無理をして体調を崩しやすい状態のことを指している。器質的異常がないのに種々の不調を訴える神経症と逆の概念で、心身症に多いと言われているが、ほかにも、糖尿病、高血圧、肝炎などの一般的な疾患でも多く問題になっている。このような患者では、
- ・自発的でなく家族に連れられて来院した
  - ・天候の話題をあまり口にしない
  - ・体調不良でもあまり仕事を休まない
  - ・食べても満腹感を感じない
  - ・風呂でリラックスするのが好きでない
- という特徴もある。神経症の患者と違って、あまり細かいことに文句を言わず、症状の種類も少なく、まともな印象を受けることも多いと思われる。
- 【到達目標】** 鍼灸治療は身体に直接作用することにより心身の調和を図る治療である。同じく身体面から作用して身体だけでなく心理面の改善を期待できる治療として、自律訓練法がある。自律訓練法には失体感症を軽減する効果があり、鍼灸治療にも同じ効果があるかどうかを検討する。
- 【授業計画】** 失体感症の傾向が強いと言われる疾患である高血圧、糖尿病、心因性発熱などの患者を対象にして、鍼灸治療を行った際、失体感症も同じに改善するかを検討する。九州大学大学院医学研究院心身医学で開発された失体感症スケールを用い、ここの共同研究となる。研究デザインとしては、combined control を用いた条件反転法などを用いる。鍼灸の研究に必要な evidence based medicine の方法についても勉強する。
- 【自己学習】** 講義中に指示する。
- 【履修上の注意】** 講義中に指示する。
- 【試験・成績評価】** 研究に対する能力だけでなく真摯な態度を含めて総合的に評価する。

◆ テキスト      なし

◆ 参考図書      有村 達, 岡 孝, 松下 智: 失体感症尺度 (体感への気づきチェックリスト) の開発 大学生を対象とした基礎研究. 心身医学 52 (8) : 745-754, 2012

近藤 弘

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 疾病の診断や病態解析に不可欠な血液学的検査技術の開発と検証、およびその臨床的応用に関して興味ある研究テーマを選定し、はじめに修士論文の研究課題の理論と実践の基礎を構築し、その臨床的応用に関するテーマについて研究を進める。研究成果から得られた結論に基づいて、その新規性、有用性などについて、関連文献をもとに吟味したうえで、プレゼンテーションのための準備を十分に行い学会・研究会などで報告する。報告を通して、公表するとともに評価を受け、最終的に修士論文を完成させる。

**【到達目標】**

1. 研究テーマを定め、関連する原著論文を集めて、内容を理解する。
2. 研究を進めるために必要な実験手技・解析技術を修得する。
3. 学会または研究会などにおいて報告する。
4. 修士論文を作成する。

**【授業計画】**

1. 興味を持った検査法に関する文献を集めて整理する。
2. 研究を進めるために必要な実験手技・解析技術を修得する。
3. 研究・実験計画を作成する。
4. 研究テーマを決定し、関連論文を査読する。
5. 実験の開始
6. 得られたデータの統計学的解析、結果の分析と考察
7. 追加実験
8. 学会・研究会などへの報告
9. 修士論文の作成、発表

**【自己学習】** 研究を進めるにあたり必要な情報の収集方法、得られた結果の数値処理・評価方法などについては、それらに関連する文献を参考にして、基礎的な知識を習得しておく。

**【履修上の注意】** 研究の意義を常に十分に理解しながら実践するという姿勢が求められる。修士論文の作成に関わる重要な過程であり、また研究者としての基礎を実践し学ぶ貴重な教科であることを自覚して本特別研究に取り組んでほしい。

**【試験・成績評価】** 研究テーマに興味を持ち、その研究の意義を理解し、積極的に実験を実施し、研究論文の作成や学会発表の準備に真剣に取り組んでいるか、研究の理解と実践の全過程を総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 関連領域の著書・論文

---

杉本 篤夫

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 少子高齢化が声高に言われている昨今、いわゆる2025年問題に対して解決策が現実のものとなっているとはいいがたい。介護される人の増加、介護する人の減少、老々介護、認知症の社会問題等々、切実な問題が山積みである。また、国家予算に占める医療や介護などの社会保障費が31兆円を超え、増える一方である。かたや国民皆保険を維持するための健康保険組合の経常収支は良いとは言い難く、皆保険制度に対していろいろな意見が取りざたされている。

そこで、日本の社会医療を取り巻く現状を踏まえ、国民皆保険制度の是非を文献で検索しまとめることを目的とする。

**【到達目標】** 日本の医療財政の現実を把握し、そのうえで国民皆保険制度の在り方の提言をすることを目標とする。

**【授業計画】**

1. 研究のための情報検索  
医中誌や国立国会図書館蔵書検索システムなどを利用し、研究に必要な情報を検索し、理解する。
2. データの解析、考察、議論、プレゼンテーション  
検索した文献を整理し、解析し、考察をおこなう。そして、自分の考えをまとめ、整理しプレゼンテーションできるようにする。
3. 研究論文の作成  
まとめたものを、論文にする。

**【自己学習】** 医療の現状を知ることが重要であり、必要である。また、法律や制度も詳しく知る必要があり、自分なりにまとめる。

**【履修上の注意】** 現実にはいろいろな問題があり、あまり一つの観点に固執すると全体が見えにくくなる。ただし、あまりにも多くの観点を考えすぎると論点がぼやける。自分の中で数点の関係ある要点を見つけ、その観点からまとめる方向で行う。

**【試験・成績評価】** 発表の内容、研究への取り組み姿勢、および論文をもって評価を行う。

---

◆ テキスト 特定の物はない。

◆ 参考図書 自分が研究する分野の書物全般、諸外国の文献も含む。

---

東家 一雄

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 本科目は修士論文執筆のための実験研究を行うことを目的に開講されている。特にここでは、免疫系の役割を担当する器官としての末梢リンパ節に焦点を当て、同組織を機能形態学的に解析する基礎研究を実施する。研究は齧歯類実験動物（マウス）のリンパ節を対象として主に免疫組織化学、透過型および走査型電子顕微鏡等の形態学的手法を用いて解析を進めるが、必要に応じてその他の解析方法も組み合わせる。それぞれの実験手技や実験原理の基礎は研究の進行過程で実践を通して習得する。本研究の遂行により、生体機能について細胞生物学や組織学を基盤とする科学的な思考に基づいて考察する力を涵養すると同時に、リンパ節の機能に関する理解を深めることを目指す。

**【到達目標】** 本学の学位審査に合格する水準をもつ修士論文を執筆し、修士（保健医療学）の学位を取得すること。

**【授業計画】** 研究の進行に伴い、以下の項目に関して体系的に指導する。

1. 実験器具、試薬、実験機器の取り扱い
2. 実験ノートの付け方
3. 実験計画の立て方
4. 実験動物の飼育と処置方法
5. 各種の実験手技および機器等の操作方法
6. 実験データのまとめ方とプレゼンテーション
7. 修士論文の執筆

**【自己学習】** 関連論文の検索や読み込み等を主体的に行うこと。

**【履修上の注意】** 履修者には旺盛な探究心と生命科学研究、実験動物に対する適切な倫理観を持って主体的、積極的に実験、研究に打ち込む姿勢を求める。研究の遂行に要求される様々な作業のうちの多くは、定められた正課時間内に処理し完了することが極めて困難である場合が多く、また、実験作業の種類によっては時間調整の融通が効かないことがある。そのため、非常に多くの正課外時間が、不定期に、本科目の作業のために費やされることを予め十分に承知した上で選択すること。

なお、本特別研究を履修するにあたり、機能形態学特論講義および機能形態学特論演習を選択し、また、大学で規定された研究倫理教育および動物実験センター利用者講習を予め受講していなければならないので注意すること。

**【試験・成績評価】** 研究への取り組み、修士論文の内容等を総合的に評価する。

◆ テキスト 実験、研究を進めながら適宜、紹介する。

◆ 参考図書 実験、研究を進めながら適宜、紹介する。

戸田 静男

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 酸化ストレスが様々な病態と関係することは、現在ではよく知られている。このような酸化ストレスに対して鍼灸効果や和漢生薬に効果のあることもよく知られるようになってきた。本研究では、これらのことについてさらに掘り下げて行う。また、これらの研究を進めていくため東洋医学の古医書の考証も行う。

**【到達目標】** これらの研究を遂行していき、学会発表や論文作成などを行う。

**【授業計画】**

1. 研究のための論文等の情報検索
2. 研究計画立案
3. 研究実施
4. 研究データに対する考察、議論
5. 研究成果の学会発表、学会雑誌投稿
6. 研究論文の作成

**【自己学習】** 絶えず、科学的思考で関係の研究に関する論文や情報を得るように勤める。そして、より最善にして最新の研究技術を身に付ける。

**【履修上の注意】** 研究過程で、逐次議論しながら行う。

**【試験・成績評価】** 研究論文を以って行う。

---

◆ テキスト      なし

◆ 参考図書      特定せず。

---

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 生活習慣病には高血圧、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症などあり、その結果血管動脈硬化、不妊、加齢等をはやめたりする。現在社会においては罹患者が急増していることもあり、これから予防対策をしていかなければならない重要な疾患である。このような疾患について鍼灸、理学、ヘルス、臨床検査、看護のそれぞれの立場から何ができるかを世の中に発表されている事実をもとに、新に何ができるかを自ら考え、研究内容を整理し、おもに動物、培養細胞等を使った基礎的な（主に分子生物学的な）実験をおこない英語論文を作成することを目的とする

**【到達目標】** 自分のしたい研究内容を考え、その考えが、論文等でノイエス (neues) どうか検索し、研究計画をたて実験を行い、最終的に英語論文にまとめることを目標とする

**【授業計画】**

1. 研究計画立案のための情報検索  
PubMed などを利用し、英語論文をしっかりと検索し、研究に必要な情報を検索し、理解する  
そして事前の実験計画を作成する。
2. 研究実施とデータの解析、考察、議論、プレゼンテーション  
おこなった実験データを整理し、解析を行い考察をおこない、自分の考えをまとめ、次に何をどうするかを考え整理しプレゼンテーションできるようにまとめる
3. 研究論文の作成  
おこなってきた実験を整理し論文の作成をおこなう

**【自己学習】** 当然英語の勉強が必要である。自宅では実験にあたる前に、事前の研究計画が必要であり、論文に基づいて実験ノートを作成しあらかじめ何をこなうかシュミレーションすることが必要となる

**【履修上の注意】** 情報検索では英語論文を用いるため、英語論文を読める英語力を必要とします。実験の性質上、長時間を有する実験操作を行う場合があります。

**【試験・成績評価】** 発表の内容・方法・研究への取り組みおよび研究論文をもって評価を行います。

---

◆ テキスト 適宜英語論文をわたします

◆ 参考図書 自分が研究する分野の英語論文全般

---

# 特別研究

増田 研一

配当年次

1 2

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 運動器の病的状態や各種コンディショニング／治療法に対する客観的／科学的評価を行う事を目的とする。

**【到達目標】** 上記に対して、客観性／再現性をもって評価することが可能となることを目標とする。

**【授業計画】** 対象学生に対して随時指示する。基本的に学外の学会・研究会発表や論文投稿も含め指導する。

**【自己学習】** 対象となる領域に関して、論文抄読や学会／研究会参加も指導する。

**【履修上の注意】** 対象学生に対して随時指導する。

**【試験・成績評価】** 発表内容などを総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 特に指定しない。

---

山本 博司

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

- 【目的】** 疫学を学び、自ら興味のある分野の研究計画を立て、実践する。
- 【到達目標】** 疫学の研究計画を立て、実践することが出来る。他の論文を疫学的に評価出来る。
- 【授業計画】** 優秀な海外研究論文を学び、実際に「変形性膝関節症に対する鍼灸治療の臨床的効果に関する研究」を行う。  
EBM (Evidence-Based Medicine) を理解する。
- 【自己学習】** テキスト・参考図書を自習する。
- 【履修上の注意】** 英語論文を読むので、日頃から英語に親しんでおくように心掛ける。
- 【試験・成績評価】** 学会発表・修士論文作成など。

---

◆ テキスト 『ロスマンの疫学』 Kenneth J. Rothman 著  
矢野栄二訳 (篠原出版)

◆ 参考図書 『MODERN EPIDEMIOLOGY 3rd edition』 Kenneth J. Rothman

---

若山 育郎

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 鍼灸の EBM を理解できる、使うことができる

**【到達目標】**

1. 鍼灸の臨床研究論文を批判的に吟味できる
2. 診療ガイドラインの作製方法を理解する

**【授業計画】** テーマ：鍼灸の EBM に関する研究

我が国においては、鍼灸は 5 世紀に中国から伝来されて以来、脈々と受け継がれ江戸時代に大成した。しかしながら、現代においては特に臨床研究の分野での我が国の鍼灸に関する臨床研究は、中国・韓国など伝統的に鍼灸が実践されている国々のみならず、近年新しい治療手段として鍼灸を取り入れている欧米にも既に遅れをとっているのが現状である。本特別研究では、日本における鍼灸の EBM の発展に寄与することを目的に以下の研究を行う。

1. 鍼灸の診療ガイドラインに関する研究
2. 我が国で発表された鍼灸研究論文の出版バイアスに関する研究

**【自己学習】** 課題を毎回出題するので、次回までにそれを自分でまとめる

**【履修上の注意】** 連絡を密にすること

**【試験・成績評価】** 日頃の課題の成果等で評価する

---

◆ テキスト 特に指定しない

◆ 参考図書 研究の中において紹介する

---

伊藤 俊治

配当年次

必修 ● 6単位 (演習)

- 【目的】** 主に骨格系とカルシウム代謝について研究を行う。  
骨格系は、免疫系、神経系、循環系と互いに関係しながら形成・機能する複雑な「臓器」である。骨格系の構成要素は数種類の細胞に限定されているのに、その形態と機能はバラエティに富んでおり、それ故関連する疾患も多彩である。また骨は様々な蛋白質やカルシウム、リンの貯蔵場所としての機能も持っており、腎機能や全身の臓器の石灰化とも関連している。  
本特別研究においては、分子生物学的・分子病理学的解析手段を用いて、骨格系の形成や維持、疾患発生についての実験的研究を行う。実験研究の分野としては、①骨格の形成における石灰化のメカニズムの分子学的解析 ②関節の形成と維持に関係する分子の同定と疾患への関与の解析 ③各臓器における異所性石灰化疾患のメカニズムと骨石灰化メカニズムの共通性の解明 ④力学的刺激に対する応答機構の分子的解析 ⑤精子形成とカルシウム代謝の連関の解析 などを予定している。
- 【到達目標】** 修士論文を作製し、それが査読誌の審査をパスして掲載されることを目標とする。
- 【授業計画】** まず研究テーマを決定したあとに、文献調査を行う。データベースから研究に必要な関連論文を検索し、その内容を元に予備実験をおこなって研究計画を策定する。  
また実験の方法について書籍や論文を調査し、本実験を行い、結果を整理・考察して論文を作製、プレゼンテーションを準備して学会等で発表する。  
実際の研究については逐一相談の上実施するが、主たるフィールドは動物実験と培養細胞を用いた分子生物学的、組織学的解析である。
- 【自己学習】** 当該分野についての研究動向について、関連論文に必ず眼を通し理解しておくことを必要とする。また実験研究であるので、研究手法についての目配りも必要で、月に5報程度は英語論文の通読が必要である。
- 【履修上の注意】** 研究は自主的に行うもので、指導はするが受け身ではできないことに留意して欲しい。
- 【試験・成績評価】** 修士論文によって評価する。

◆ テキスト 特になし。

◆ 参考図書

- ・ Gilbert, SF., "Developmental Biology 10th" Sinauer Associates, Inc., 2013
- ・ Hall, BK. "Bones and Cartilage: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology" Academic Press, 2005

大島 稔

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 近年、神経科学領域は電気生理学的手法、形態学的手法、分子生物学的手法など目覚ましい発展を遂げている。

本特別研究においては、電気生理学的手法と形態学的手法を用いて、視床-皮質投射系の情報処理に関する研究を行うことを目的とする。

**【到達目標】** 実験を行うことでその手法を学び、過去の論文と得られ結果から何が言えるかを考える能力を身に付けることを目標とする。また、学会発表や論文にまとめることができるようになることも目標とする。

**【授業計画】**

1. テーマの設定
2. 実験手法を習得
3. データ解析
4. 論文作成
5. プレゼンテーション

**【自己学習】** 研究に関係する論文を入手し、それを読む。

**【履修上の注意】** 動物実験を行うので、その世話をを行うこと。週に1回は論文の抄読会か、研究の報告会を行うので、その準備をすること。

**【試験・成績評価】** 取り組みと論文作成で総合的に判断する。

---

◆ テキスト 特にないが、テーマに関連する論文。

◆ 参考図書 「Neuroscience」PURVES（著）ら Sinauer Associates Inc.,U.S.

---

# 特別研究

木村 研一

配当年次

1 2

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 鍼灸は伝統的治療法として広く知られているが、その治療効果については evidence-based medicine に則った客観的な評価が必須で、「科学的根拠」を立証することが必要とされている。鍼灸治療には痛みを緩和したり、末梢循環を改善する作用があることが知られている。末梢循環の改善により栄養物質の供給や炎症等による疲労物質の除去などが促進されると考えられている。特別研究では低周波鍼通電刺激が筋組織中の酸素動態に及ぼす影響について、近赤外線分光法（NIRS）を用いて検討する。

**【到達目標】** 学会発表と修士論文作成を行う。

**【授業計画】** 先行研究についての論文を読み、研究計画の立案と研究手法について学ぶ。実験を行い、実験結果について修士論文にまとめる。

**【自己学習】** 生理学などの研究に関連する分野の勉強を行う。

**【履修上の注意】** 真面目に研究に取り組む

**【試験・成績評価】** 研究論文の内容で評価する。

---

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 特になし

---

坂口 俊二

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 鍼灸学の更なる発展には、鍼灸治療の有効性、安全性、経済性の検証が不可欠である。本科目では、「冷え症」を始めとする末梢循環障害を対象とし、特に鍼灸治療の有効性について臨床研究を行う。また、臨床研究の遂行にかかるデータ取得のための基礎的な知識や治療の評価法などを習得し、鍼灸治療の有効性をより客観的に評価する力を養うことを目指す。

**【到達目標】** 臨床研究のためのルールを身に付け、それに基づいた研究を遂行できる。

**【授業計画】** 以下の項目について体系的に指導する。

1. 臨床研究のためのルール
2. 臨床研究の手法
3. 臨床研究の実践
4. データの解析
5. 研究結果のプレゼンテーション
6. 修士論文の執筆

**【自己学習】** 関連研究へのアンテナを張って、その成果を常にアップデートすること。

**【履修上の注意】** 旺盛な探求心をもって研究に積極的に取り組むことを求める。

**【試験・成績評価】** 研究に取り組む姿勢 60%・研究の成果 40%にて評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 適宜紹介する。

---

高岸 美和

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 我が国は、世界でも類をみない超高齢社会に突入している。日常生活を健康的に送ることのできる期間である“健康寿命”を延ばす新たな取り組みや、安全で気軽に実施できる効率のよい手法、またそれらが身体に及ぼす影響や効果などを検討し、自らが持つ資格を活かして、いかに社会に貢献していくかを検討することを目的とする。

**【到達目標】** 疑問点や問題点に対して論理的な思考で解決に導く姿勢を身につける。

**【授業計画】**

1. 研究テーマの決定
2. 研究テーマに基づく文献検索および情報収集
3. 研究計画の立案
4. 予備研究の実施
5. 研究実施
6. データの解析・分析とプレゼンテーション
7. 論文の作成

**【自己学習】** 研究テーマの決定から修士論文の作成までに至る必要事項

**【履修上の注意】** 研究テーマを自ら決定し、受け身ではなく強い意志を持って積極的に取り組む姿勢を持つことを必要とする。

**【試験・成績評価】** 修士論文の作成 90%・平常点 10%にて評価

---

◆ テキスト 随時指示する。

◆ 参考図書 随時指示する。

---

谷 万喜子

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

- 【目的】** 本学では、関西鍼灸短期大学時代の平成7年より、ジストニア患者に対して、表面筋電図を用いた鍼治療効果の検討を継続的におこなっている。当初は、主として頸部ジストニアを対象に研究を実施し、鍼治療効果を確認した。その後、書痙・Musician's cramp などの上肢ジストニアをはじめ顔面、体幹、下肢などのジストニアに対する鍼治療経験も得た。ジストニアに対する治療の第1選択としては、他の西洋医学的治療がおこなわれることの方が圧倒的に多い。しかし、手術や頸部ジストニアに対する治療の第1選択とされているボツリヌス治療、心理療法などをおこなっても十分な効果が得られない場合もあり、本学の方式による鍼治療は、それらの治療を補完するものとして期待されている。本研究では、ジストニアに対する鍼治療の有用性と鍼治療効果をさらに高める方策を基礎的・臨床的に検討する。
- 【到達目標】** ジストニアの評価方法として、表面筋電図の検査手法を習得し、頸部ジストニアおよび上肢に対する鍼治療の基本的な手技を習得する。
- 【授業計画】** 神経疾患のなかでも、鍼治療効果の期待されるジストニアに対する評価と鍼治療技術を習得する。臨床研究として、臨床上で得られた効果・課題から研究テーマを定める。また、ジストニアに対する鍼治療では、罹患筋の筋緊張異常をコントロールするために循経取穴の理論に基づいて、遠隔部経穴への刺激を用いている。そのため、基礎的研究としては、循経取穴による鍼刺激効果を神経生理学的に検討する。それぞれの研究の結果、得られた成果について学会発表および論文作成を行う。
- 【自己学習】** 文献等により、「ジストニア」という疾患の病態・治療法などについての理解を深める。
- 【履修上の注意】** 木曜日の附属鍼灸治療所・ジストニア専門外来を受診される患者様にご協力いただき、鍼治療を実施するため、患者様への配慮を必要とする。
- 【試験・成績評価】** (社)全日本鍼灸学会学術大会および、(社)全日本鍼灸学会近畿支部学術集会において演題発表を行うとともに、論文としてまとめる。これらの発表の内容、取り組みを総合的に評価する。

◆ テキスト 随時指示する。

◆ 参考図書 『The acupuncture for Dystonia —ジストニアと鍼治療—』  
鈴木 俊明・谷 万喜子 監修（アイベック）

必修 ● 6 単位 (演習)

**【目的】** 臨床上の疑問を解決するために自ら研究計画を立案し、実行できる能力を養うことを目的とする。

**【到達目標】** 研究計画の立案、データ記録・処理、考察の過程を通して修士論文にまとめることを目標とする。

**【授業計画】** 研究テーマ、および方法論については文献抄読会を行いながら作成し、適宜開催する経過報告会においてコメントを受けながら立案する。その後、予備実験による方法論の修正、本実験によるデータ収集へと展開していく。本実験より得られた結果をもとに修士論文を作成する。

**【自己学習】** 特にないが、類似の研究をリサーチするなど日常から文献を読む習慣を身に付けてほしい。

**【履修上の注意】** 中間報告会、公開発表会、および審査用論文提出など定められた期日を厳守し、積極的に取り組んでもらいたい。

**【試験・成績評価】** 1 年次：研究報告（文献抄読、研究テーマおよび方法論の作成、データ記録・処理など）に関するレポート 80%、平常点 20%  
2 年次：修士論文の内容 70%、プレ中間および中間発表会、公開発表会での内容 30%

---

◆ テキスト 特指定しない。適宜資料を配布する。

◆ 参考図書 研究テーマによって異なるため、参考図書は適宜紹介する。

---

戸村 多郎

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 世界的に鍼施術の有効性を検討する際、特定の疾患を対象とした介入研究が実施されている。しかし、検討の中心が専ら治療効果で、治療方針は殆ど検討されていない。この原因の1つが、東洋医学にはエビデンスに基づく診断方法が極端に少ないことである。この問題を解決するために、有効な診断尺度の確立は不可欠である。例えば、東洋医学的診断尺度「五臓スコア（Five Viscera Score: FVS）」は、2000年以上もの間、患者観察により蓄積された症状を統計学的にまとめたものである。この開発には、尺度（質問紙）作成の技術が利用されている。講義では、FVSの作成過程を題材に尺度作成の技術を学ぶことで、将来さまざまな診断尺度や質問紙の作成、マーケティングなどに役立つスキルを身につける。また、尺度作成技術のみならず調査方法や解析方法、研究発表までをトータルに学ぶ。

**【到達目標】** 診断尺度や質問紙の作成、それに係る調査、解析、発表ができることを目的とする。

**【授業計画】**

1. 尺度（質問紙）作成総論
2. 調査方法
3. データ解析方法
4. 論文執筆方法
5. プレゼンテーション技術

**【自己学習】** さまざまな統計手法を用いるため、統計学の図書を利用した予習と復習が必要です。

**【履修上の注意】** パソコン（Microsoft社のWordとExcel、電子メール）の扱いに慣れていること。旺盛な探求心をもって自ら積極的に研究に取り組むことを求め。

**【試験・成績評価】** 研究への取り組む姿勢、研究発表や論文の内容によって評価する。

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 木原雅子, 木原正博 翻訳 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)  
臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン 福原俊一 (認定NPO法人健康医療評価研究機構)

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 慢性疼痛管理の治療薬として抗炎症薬や麻薬性鎮痛薬などが利用され、積極的な治療が行われている。しかし、一部の疼痛は、これらの薬物に対して抵抗性を示すことが明らかとなっている。これは、慢性疼痛を引き起こす機序が多岐にわたることを意味し、機序に見合った治療が行われなければ、十分な鎮痛を引き起こすことが出来ないことを示唆する。そのため、慢性疼痛の多岐にわたる発現機序の詳細を明らかにすることは、多くの慢性疼痛患者を抱える我が国にとって急務である。そこで、本演習では、培養細胞系や実験動物を用いて基本的な分子生物学的および細胞生物学的手法による解析を行い、慢性疼痛の機序の解明を試みる。

**【到達目標】** 研究者としての基本的な実験手技の取得およびその実践、実験結果から導き出せる妥当な解釈の導出法の修得、最終的には、これらを修士論文へとまとめ上げる力の育成を目標とする。

**【授業計画】** 基礎研究を進め、論文執筆までの必要な知識を体系的に指導する。その概要を以下に示す。

1. 慢性疼痛に関する分野の論文を調査し、また関連学会へ参加することにより、現在この分野における研究の動向を把握したうえで、深い興味を持って取り組むことが出来る研究課題を決定する。
2. 研究課題に沿って、研究計画を設計し、研究プロセスや研究法などが妥当であるか検討する。
3. 研究計画を実際に遂行するのに必要な実験手技、機器、器具の取り扱い、培養細胞や実験動物の扱いなどを、実験を通じて習得する。
4. 研究計画に従って研究を行い、実験データを集積する。必要に応じて実験データの解析法を習得する。
5. 集積された実験結果をまとめ修士論文を作成する。

**【自己学習】** 大学院研究では、能動的な取り組みが重要となる。研究課題に対して常に興味を持ち、自主的に調査・研究・学習を行うこと。

**【履修上の注意】** 国内外の研究成果のほとんどが英文で発表されている。従って、本演習を受講する学生に対して英文論文を読み、その内容について十分理解し、必要な情報を得ることが出来る語学力を必須とする。

**【試験・成績評価】** 以下の点について学年の最後に判定する。

1. 正しい研究手技が身についているか。
2. 実験データの質が論文作成に適したものであるかどうか。
3. 実験結果をもとに、妥当な解釈を行い、適切に論文作成が行われているかどうか。
4. 研究課題についての討議を行い、内容を十分理解できているかどうか。

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 必要に応じて提示する。

米田 浩久

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

- 【目的】** 本特別研究では、主として運動学習の諸機序の解明について、表面筋電図や重心動揺・圧分布、動作解析などの実験装置を用いて、理学療法に応用することを目的に基礎研究として、臨床身体機能科学について研究を実施する。
- 【到達目標】** 修士論文の完成が最終的な目標であるが、研究の進行過程にもよるが、機会があれば学内にとどまらず、途中経過を専門学会で報告し、専門家からの示唆も受けながら修士論文を作成することを考えている。
- 【授業計画】** 研究テーマおよび方法論については、英文および和文の文献検索レビューを行いながら作成し、適宜開催する経過報告会において示唆を受けながら立案する。その後、予備実験による方法論の修正、本実験によるデータ収集へと展開していく。本実験より得られた結果を基に修士論文を作成する。
- 【自己学習】** 自己の研究テーマに関する文献検索は、自主的かつ積極的に実施すること。適宜、文献の確認と実験アウトラインの整合性を確認する。
- 【履修上の注意】** 中間発表会や公開発表会、審査用論文提出などの定められた期日を厳守し、積極的に取り組んでもらいたい。
- 【試験・成績評価】** 修士論文の内容や研究に取り組む姿勢によって、総合的に判断する。

---

◆ テキスト 特に定めない。適宜、資料を配付する。

◆ 参考図書 特に指定しない。

---

大瀧 博文

配当年次

必修 ● 6単位（演習）

**【目的】** 病原微生物の中でも主に細菌にターゲットを絞り、臨床的に重要な菌種における病原因子や薬剤耐性因子などの疫学解析やそれらの検出に有用となる新たな検査法の検討を行う。

**【到達目標】**

1. 研究に必要な知識、技術を修得する。
2. 論文（邦文・英文）から最新の知見を得る習慣を身に付ける。
3. 学会・論文発表を目標とし、それらに必要なステップ（データ解析、文書・図表作成、発表スライド・論文作成）を修得する。

**【授業計画】**

1. 研究課題の決定
2. 研究課題を遂行するための必要な基礎的知識および最新の知見の修得
3. 研究計画の立案
4. 実験器具・機器・試薬の取り扱いについて
5. 各種の実験の実施
6. 実験データの解析およびまとめ
7. プレゼンテーション
8. 論文作成

**【自己学習】** 「感染症および病原微生物のプロフェッショナル」を目指し、常日頃から必要な情報の収集を心がける。

**【履修上の注意】** 積極的に取り組むこと。

**【試験・成績評価】** 修士論文および研究への取り組み姿勢によって評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない（適宜配布する）。

◆ 参考図書 特に指定しない（必要に応じて紹介する）。

---

竹田 知広

配当年次

必修 ● 6 単位 (演習)

- 【目的】** 臨床検査で用いられる免疫学的検査手法、実験手法を習得し、アレルギー発症機構の解明を目的とする。
- 【到達目標】** 免疫学的実験手法、基礎免疫、臨床免疫を習得し、アレルギー発症機構の解明することを到達目標とする。
- 【授業計画】** 抄読会にて基礎免疫、臨床免疫学について学習し、フローサイトメトリーや RT - RCR 等の基礎的実験手法について実習する。また、マウスモデルを用いてアレルギー発症機構の解明を目標とする。
- 【自己学習】** 研究テーマに沿った論文を熟読すること。
- 【履修上の注意】** 特記事項なし。
- 【試験・成績評価】** ミーティングでの発表 50%・平常点 (研究の進捗状況等) 50%

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 特に指定しない。

---

保健医療学研究科

2年

---

必修 ● 通年・4単位（講義）

**【目的】** 4年間の学士課程で得た運動器の病的状態に対する様々なアプローチをベースとして、更に進歩した外科系領域の知識取得を目的とする。

**【到達目標】** 2名の教員が講義形式で機能解剖から始まり検査診断学／治療学に至るまで、外科系の最新の知識を解説する。具体的には通年で2名の教員が以下の内容で分担して講義を進め、最新の知識を得ることを到達目標とする。

（金井教授）

補助診断法として進歩のスピードが非常に著しい画像診断方法を中心に解説する。

（増田教授）

整形外科領域でこの1年間に発表された各種トピックスを解説する。

**【授業計画】**

※ 1～15 は金井教授担当

1. 外科系画像診断学総論①
2. 外科系画像診断学総論②
3. 外科系画像診断学総論③
4. 単純レントゲン写真①
5. 単純レントゲン写真②
6. 単純レントゲン写真③
7. CT ①
8. CT ②
9. CT ③
10. MRI ①
11. MRI ②
12. MRI ③
13. エコー①
14. エコー②
15. その他の画像診断

※ 16～30 は増田教授担当

16. 整形外科学総論①
17. 整形外科学総論②
18. 診断学総論①
19. 診断学総論①
20. 外傷学
21. 整形外科学疾病
22. 上肢①肩関節／上腕
23. 上肢②肘関節／前腕
24. 上肢③手関節／手
25. 下肢①股関節／大腿
26. 下肢②膝関節
27. 下肢③足関節／足
28. 脊椎①頸椎
29. 脊椎②胸腰椎
30. その他

**【自己学習】** 各自の研究領域との重複箇所を中心に予習／復習を継続する。

**【履修上の注意】** 本講義の履修／進行の詳細に関しては変更もあり得るので、連絡／確認に注意すること。

**【試験・成績評価】** 両教員の施行する定期試験／小テスト／レポート／講義中の課題などを総合して判定する。

◆ テキスト 特に定めない。

◆ 参考図書 特に定めない。

選択 前期・2単位（講義）

**【目的】** 本講義では、鍼灸と社会保障制度および保険制度、鍼灸を取り巻く国内外の状況を概説し、次いで鍼灸治療で効果の期待できる疾患・症状を中心に臨床研究の成果（エビデンス）、具体的な治療法や評価法などについても講義を行う。今後の鍼灸臨床および臨床研究に有益な情報を提示していく。

**【到達目標】** 鍼灸を統合医療、社会保障や高齢者保健の立場から概観することができる。  
項目に挙げた疾患・症状に対する鍼灸治療のエビデンスについて説明することができる。

**【授業計画】**

1. 社会保障について
2. 医療保険制度について
3. 介護保険制度について
4. 統合医療・CAM と鍼灸
5. 社会保障制度と鍼灸
6. 鍼灸の国内外の事情
7. 鍼灸治療のエビデンス（有効性・安全性・経済性）
8. 頸部痛に対する鍼灸治療効果
9. 肩関節痛に対する鍼灸治療効果
10. 腰下肢痛に対する鍼灸治療効果
11. 頭痛に対する鍼灸治療効果
12. 末梢性顔面神経麻痺に対する鍼灸治療効果
13. 腰痛に対する鍼灸治療効果
14. 末梢循環障害に対する鍼灸治療効果
15. 症例研究から探る鍼灸治療の適応症

**【自己学習】** 各講義を契機に、さらに文書や文献を検索し、知識の定着を図る。

**【履修上の注意】** 講義は担当教員3名が各5コマを担当する。各週の内容の習得に努めること。

**【試験・成績評価】** 出席状況、各教員のレポート、課題発表などから総合的に評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 適宜紹介する。

---

若山 育郎

配当年次

選択 前期・2単位(演習)

**【目的】** 鍼灸治療が有効であるかどうかについては少なくともこれまでは検証されてこなかった。1990年代に始まった Evidence-based Medicine (EBM) の波は鍼灸にも及び、特に歴史的に鍼灸が用いられて来なかった欧米において、「本当に鍼灸は効くのか」という Research Question に対する検証が始まった。当初は臨床研究の質が低く、しかも少数を対象にした研究がほとんどであったため、鍼灸が有効であるかどうかについてのエビデンスはほとんど得られない状況が続いたが、2008年以降、欧米、特に、ドイツ、アメリカが先導する形で質の高い、大規模な研究が発表されるにつれ、現在まで鍼灸が用いられて来たいくつかの疾患、あるいはこれまで鍼灸があまり適応とは考えられてこなかったいくつかの疾患において次第に鍼灸の治療効果に対するエビデンスが出始めている。本演習では、日本の臨床研究論文、欧米の臨床研究論文などを批判的に読む訓練をまず、おこなったうえで、鍼灸による臨床研究論文を収集し、構造化抄録の書き方について指導する。

**【到達目標】** 鍼灸臨床研究の意義を理解する。  
鍼灸臨床研究の方法を理解する。  
鍼灸臨床研究論文を読んで構造化抄録を作成できる。  
鍼灸臨床研究論文を批判的に吟味できる。  
鍼灸臨床研究の英文を読むことができる。

**【授業計画】**

1. 臨床研究入門
2. 臨床研究におけるバイアス
3. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
4. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
5. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
6. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
7. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
8. 日本語 RCT 論文の構造化抄録作成
9. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
10. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
11. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
12. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
13. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
14. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成
15. 英語 RCT 論文の構造化抄録作成

**【自己学習】** 文献検索し、種々の鍼灸臨床研究論文を見つけて、読む。

**【履修上の注意】** 出来るだけ早く始めたいので希望者は一年次の夏休み明けに申し出ること。

**【試験・成績評価】** 日頃の取り組み方によって評価する。

◆ テキスト 受講時に紹介する。

◆ 参考図書 特に指定しない。

選択 前期・2単位（講義）

**【目的】** 身体運動の理解は、障害をもった患者様に対する有効な理学療法を確立する上で必要不可欠となる。また、現時点で障害を有していなくても、理想的な身体運動の理解に基づいた運動および動作指導によって、その発生を予防することも可能である。本講義では、神経生理学的および運動学的手法などの見地から、身体運動を科学的に解析することを目的とする。

**【到達目標】** 身体運動の理解により、科学的に解明するための基礎知識を身につけることを目標にする。

**【授業計画】**

1. 動作筋電図を用いた身体運動の解析 1
2. 動作筋電図を用いた身体運動の解析 2
3. 動作筋電図を用いた身体運動の解析 3
4. 動作筋電図を用いた身体運動の解析 4
5. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 1
6. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 2
7. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 3
8. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析 4
9. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 1
10. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 2
11. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 3
12. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析 4
13. その他の機器を用いた身体運動の解析 1
14. その他の機器を用いた身体運動の解析 2
15. その他の機器を用いた身体運動の解析 3

**【自己学習】** 身体運動の解析をする際に必要な解剖学、運動学、生理学の知識を再度確認しておくこと

**【履修上の注意】** 課題研究の基礎になる科目であるために積極的に出席し、疑問点を残さないようにすること

**【試験・成績評価】** 授業内での発表内容（資料、プレゼンテーション）80%、平常点20%

---

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 藤原哲司、鈴木俊明・他 監修：The Electromyography Research for Physical Therapy and Acupuncture - 理学療法・鍼灸治療における筋電図研究のすべて -、アイベック 2007

---

選択 前期・2単位(演習)

**【目的】** 身体運動を十分理解した上で、表面筋電図、誘発筋電図、筋機能評価運動装置および動作解析装置を用い、身体運動を客観的に計測する技術を習得する。また、収集したデータを諸種の方法で解析して、運動療法に活かせるように指導する。具体的には、学生が研究しているテーマをプレゼンテーションしていただき、それについての演習をおこなう。

**【到達目標】** 身体運動の理解により、科学的に解明するための具体的な研究方法を演習し、その結果を発表できることを目標にする。

**【授業計画】**

1. 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 1
2. 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 2
3. 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 3
4. 動作筋電図を用いた身体運動の解析・演習 4
5. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 1
6. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 2
7. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 3
8. 誘発筋電図を用いた身体運動の解析・演習 4
9. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 1
10. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 2
11. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 3
12. 筋機能評価装置を用いた身体運動の解析・演習 4
13. その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 1
14. その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 2
15. その他の機器を用いた身体運動の解析・演習 3

**【自己学習】** 身体運動の解析・演習をする際に必要な解剖学、運動学、生理学の知識および臨床身体機能学演習で学んだ知識を再度確認しておくこと

**【履修上の注意】** 課題研究の基礎になる科目であるために積極的に出席し、疑問点を残さないようにすること

**【試験・成績評価】** 授業内での発表内容(資料、プレゼンテーション)80%、平常点20%

◆ テキスト 特になし

◆ 参考図書 **【参考図書】**  
藤原哲司、鈴木俊明・他 監修：The Electromyography Research for Physical Therapy and Acupuncture - 理学療法・鍼灸治療における筋電図研究のすべて -、アイパック 2007

東家 一雄

配当年次

選択 前期・2単位（講義）

**【目的】** 本講義では、生体を構成する器官の中から恒常性維持の一端を担う末梢性リンパ器官（リンパ節、パイエル板など）を取り上げ、それらの構造的特徴と免疫応答の成り立ちとの関連について考察する。また、免疫応答の成立には免疫系の諸器官の間で行われている免疫担当細胞の体内移動が重要な役割を果たすことから、それを制御するしくみについても解説する。

**【到達目標】** リンパ節の内部で営まれている免疫応答と細胞間相互作用、また、種々の免疫担当細胞の行動について、具体的な細胞の姿をイメージしながら考察することができるようになること。

**【授業計画】**

1. 免疫リンパ系の成り立ちについて
2. 末梢性リンパ器管の構造と機能（1）
3. 末梢性リンパ器管の構造と機能（2）
4. 末梢性リンパ器管の構造と機能（3）
5. 免疫担当細胞の種類と機能（1）
6. 免疫担当細胞の種類と機能（2）
7. 免疫担当細胞の種類と機能（3）
8. 免疫細胞の体内移動（1）
9. 免疫細胞の体内移動（2）
10. 免疫細胞の体内移動（3）
11. リンパ節に関する英文 review の輪読（1）
12. リンパ節に関する英文 review の輪読（2）
13. リンパ節に関する英文 review の輪読（3）
14. リンパ節に関する英文 review の輪読（4）
15. まとめ

**【自己学習】** 免疫のしくみはテキストの活字を読むだけでは理解しづらい。模式図や組織の写真を見ながら、立体的なイメージの中で考察ができるようにすること。

**【履修上の注意】** 新しい知識を吸収して自らの科学的思考の幅を広げようという意欲を持って受講すること。  
また、本講義の内容は機能形態学分野の特別研究と相互に関連しあう。そのため、本講義の受講は、特別研究において本講義担当教員の研究テーマを選択していることを条件とするので、履修に際しては十分に注意すること。

**【試験・成績評価】** 授業で求める課題の提出（80%）、授業参加への主体性（20%）に基づき、総合的に評価する。

◆ テキスト 指定しない。毎回の授業で資料を配付する。

◆ 参考図書 『標準免疫学』（谷口克、宮坂昌之編、医学書院）

東家 一雄

配当年次

選択 前期・2単位(演習)

**【目的】** 本演習では、生体を構成する細胞や器官の微細構造、立体構造に対する理解を深めることを目的として、主に免疫系の働きを担当する末梢器官（リンパ節、パイエル板など）を対象に顕微鏡用の試料を作製し、それらの観察を経て生体防御機能を有する免疫器官の構造の特性、および、自由細胞としての免疫担当細胞の動態について学習する。

**【到達目標】** リンパ節の組織構造の観察を通して、その内部で営まれている免疫応答と細胞間相互作用、また、種々の免疫担当細胞の行動について、具体的な細胞の姿をイメージしながら考察することができるようになること。

**【授業計画】**

1. 材料の固定（1）
2. 材料の固定（2）
3. 実験動物の取扱いについて
4. 材料の採取と固定（1）
5. 材料の採取と固定（2）
6. 材料の採取と固定（3）
7. 顕微鏡試料の作製（1）
8. 顕微鏡試料の作製（2）
9. 顕微鏡試料の作製（3）
10. 顕微鏡試料の観察（1）
11. 顕微鏡試料の観察（2）
12. 顕微鏡試料の観察（3）
13. 観察結果のまとめ（1）
14. 観察結果のまとめ（2）
15. 観察結果のまとめ（3）

**【自己学習】** 提示された課題や実際の作業について情報を収集し、理解を深めておくこと。

**【履修上の注意】** 実際の実験的作業を通して自らの科学的思考の幅を広げようという意欲を持って取り組むこと。

また、本演習は機能形態学分野の特別研究と連動して進行していく。そのため、本演習の受講は、①特別研究において本演習担当教員の研究テーマを選択していること、②本学の動物実験センター利用者講習会を予め受講していること、を条件とするので、履修に際しては十分に注意すること。

**【試験・成績評価】** 演習参加への姿勢（50%）や実験作業の理解度（50%）に基づき、総合的に評価する。

◆ テキスト 指定しない。その都度、資料を配付したり現場で指導したりする。

◆ 参考図書 指定しない。

**【目的】** ここでは、「痛み研究」の現状を紹介し、今後の展望や課題について講述する。近年、神経生物学の発展に伴い、次第に明らかにされつつある侵害受容システムやその情報処理機構について、細胞（ニューロン）レベルで、あるいは分子レベルで理解することを目的とし授業を展開する。同時に、部分的にはあるが徐々に解明されてきた慢性痛の仕組みについても講義する。また、修士論文の作成に必要な実験技術である電気生理学的手法（パッチクランプ法）や形態学的手法（in situ ハイブリダイゼーション法、免疫組織化学法）等についても紹介する。

**【到達目標】** 適宜、資料を配付するので、その内容について理解することを目標にして下さい。

- 【授業計画】**
1. 神経細胞 a. 活動電位と静止膜電位
  2. 神経細胞 b. 脊髄後角における細胞構築
  3. 神経細胞 c. 伝導路と神経回路
  4. 神経における情報伝達機構 a. 化学シナプスと電気シナプス
  5. 神経における情報伝達機構 b. 伝達物質と修飾物質
  6. 神経における情報伝達機構 c. イオンチャネル型受容体と G 蛋白結合型受容体
  7. 神経における情報伝達機構 d. 興奮性ニューロンと抑制性ニューロン
  8. 神経における情報伝達機構 e. 可塑性
  9. 免疫組織化学法 基礎
  10. 免疫組織化学法 応用
  11. In situ ハイブリダイゼーション法 基礎
  12. In situ ハイブリダイゼーション法 応用
  13. パッチクランプ法 基礎
  14. パッチクランプ法 応用
  15. 総括

**【自己学習】** 事前に配付した資料を十分に読み込んで、理解できない箇所を抽出しておくことが重要です。

**【履修上の注意】** 講義の内容を十分に理解できるように、予習・復習を十分に行って下さい。

**【試験・成績評価】** 試験 50%・平常点 50%にて評価します。

---

◆ テキスト 適宜、資料を配付します。

◆ 参考図書 「痛みと鎮痛の基礎知識 上・下」 小山なつ 著、技術評論社出版

---

檜葉 均

配当年次

選択 前期・2単位(演習)

**【目的】** この演習では、これまで既に発表されている疼痛に関する論文を検索することから始める。学生は、以下の論文の中から最も興味を持った論文の一つを選択し、その論文の概要(主旨、目的、方法、結果、考察)について「レジюме」を作成する。これを授業の中で発表し、これまでに何が解明され、今後、何を明らかにしなければならないのかを発表者も含め受講者全員で議論する。このように学生が独自の修士論文を作成するべく知識を深め、研究能力を高めるためにゼミ方式の授業を採用し、「生体情報学概論」および「生体情報学特論」で学習した内容をより実践的に学習する。

**【到達目標】** 論文の構成や文章の論理的組み立てを理解し、自らの修士論文の作成に生かせるように学習することが重要です。

**【授業計画】**

1. 論文とは：原著論文、短報、総説
2. 論文検索と論文の読み方
3. 論文の構成、作成と投稿
4. 論文の読み方 (1-1) Mechanisms for the anti-nociceptive actions of the descending noradrenergic and serotonergic systems in the spinal cord, Yoshimura et al, J Pharmacol Sci;107-17, 2006
5. 論文の読み方 (1-2) 同上
6. 論文の読み方 (1-3) 同上
7. 論文の読み方 (1-4) 同上
8. 論文の読み方 (2-1) Cell-type-specific excitatory and inhibitory circuits involving primary afferents in the substantia gelatinosa of the rat spinal dorsal horn in vitro, Yasaka et al, J Physiol :603-18, 2007
9. 論文の読み方 (2-2) 同上
10. 論文の読み方 (2-3) 同上
11. 論文の読み方 (2-4) 同上
12. 論文の読み方 (3-1) Whole-brain imaging with single-cell resolution using chemical cocktails and computational analysis, Susaki et al, Cell, 157(3):726-39, 2014
13. 論文の読み方 (3-2) 同上
14. 論文の読み方 (3-3) 同上
15. 論文の読み方 (3-4) 同上

**【自己学習】** 学生は論文を読み、理解し、その内容について授業の中で発表します。どんな質問についても答えられるように十分準備して下さい。

**【履修上の注意】** 英語の論文を読んで、その概要をレジюмеにまとめてもらいます。講義の趣旨を理解し、履修するようにして下さい。

**【試験・成績評価】** 平常点100%にて評価します。

◆ テキスト 適宜、資料を配付します。

◆ 参考図書 「痛みと鎮痛の基礎知識 上・下」小山なつ 著、技術評論社出版

伊藤 俊治

配当年次

選択 前期・2単位（講義）

**【目的】** 生体の情報処理の中で、特に形態形成論とそれに関わる遺伝情報ネットワークの機能に着目して、運動器とその疾患を題材に講義・討論を行う。前半では骨格系、後半では筋肉系についての講義を予定している。

骨格系は免疫系、神経系、循環系と互いに関係しながら形成・機能する複雑な「臓器」である。骨格系の構成要素は数種類の細胞に限定されているのに、その形態と機能はバラエティに富んでおり、それ故関連する疾患も多彩である。本講義では、骨格系形成の基本的なメカニズムについて理解し、現在の課題について議論出来るようになることを目的とする。

筋肉系についても、近年キーとなる分子の同定が進み、分子生物学的な理解が可能となってきた。しかし筋肉の発生や再生については、まだ多くの課題が残されている。現在の研究の成果と、将来的な課題について理解を深めることを目的とする。

**【到達目標】** 運動器の分子メカニズムについて、専門的な討論が行える能力を身につける。

**【授業計画】**

1. Basic Methodology of Molecular Cloning:1
2. Basic Methodology of Molecular Cloning:2
3. Basic Methodology of Molecular Cloning:3
4. Molecular Mechanisms of Bone and Cartilage Development:1
5. Molecular Mechanisms of Bone and Cartilage Development:2
6. Molecular Mechanisms of Bone and Cartilage Development:3
7. Joint Formation and its Molecular Mechanism:1
8. Joint Formation and its Molecular Mechanism:2
9. Joint Formation and its Molecular Mechanism:3
10. Calcium Metabolism:1
11. Calcium Metabolism:2
12. Muscle Development and Repair:1
13. Muscle Development and Repair:2
14. まとめ
15. まとめ

**【自己学習】** 参考テキストは英文なので、自宅での十分な読解を要する。

**【履修上の注意】** 参考図書に選定した書籍は高価なので、特に購入の必要は無い。必要に応じて教員から提供する。

**【試験・成績評価】** 課題提出やレポートによって判断する。

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書

- ・ Green, MR., "Molecular Cloning 4<sup>th</sup> edition" Cold Spring Harbor Laboratory, 2012
- ・ Gilbert, SF., "Developmental Biology 10<sup>th</sup>" Sinauer Associates, Inc., 2013
- ・ Arias, AM & Stewart, A "Molecular Principles of Animal development", Oxford Univ. Pr., 2002

伊藤 俊治

配当年次

選択 前期・2単位（演習）

- 【目的】** 「病態情報学特論講義」で講義した内容に沿って、更に高度な理解を得るために、データベースより英文の研究論文を検索し、その批判的な読解ができるよう演習を行う。また、研究を行う上で必要な Web サイトの利用法とその実際について概説し、実際にその利用を演習する。  
また必要に応じて分子生物学的解析や動物実験の実習も行う。
- 【到達目標】** 分子生物学的な実験方法を英語文献から読み取り独力で行える能力の獲得を目的とする。
- 【授業計画】** 講義概要に沿って、英語論文の読み方、取捨選択、引用方法を適宜解説し、自らの修士論文作製にも役立てるようにする。また修士として必要な実験科学に対する知識・経験を積むために、実際に一部の実験を体験することを計画している。
- 【自己学習】** 参考テキストは英文なので、自宅での十分な読解を要する。
- 【履修上の注意】** 病態情報学特論講義の履修を条件とする。演習であるので、出席を重視する。
- 【試験・成績評価】** 演習課題の達成度によって評価する。

---

◆ テキスト 特に指定しない。

◆ 参考図書 適宜紹介する。

---

選択 前期・2単位（講義）

**【目的】** 高齢社会を向かえ、希少疾患とされて来たアルツハイマー病やパーキンソン病など老年期神経疾患や脳血管障害が日常診療の中で益々増加している。保健医療人として、それらの疾患に対処するためには、神経疾患の三段階診断（3-steps diagnosis）により病変の部位や性質をよく理解し、高血圧症や糖尿病など基礎疾患を見逃すことなく、鍼灸をはじめ東洋医学的物理療法、リハビリテーション、運動・療養指導ならびに看護・介護ケアなどが的確にでき、他の医療従事者と連携できる能力を養成する必要がある。本講では、内科学、ならびに神経学的診断学の基礎的原理を講義し、これらの疾患に科学的なアプローチが出来るよう指導する。

**【到達目標】** 各種疾患の病態を的確に理解する総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

**【授業計画】** 以下の重要項目について適宜理解できるよう講義する。

1. 内科疾患への診断学的アプローチに必要な解剖学、生理学、病理学の基礎事項について
2. 神経学における症状（symptom）と徴候（sign）の相違について
3. 解剖学的な診断、神経学に重要な部位診断について
4. 症状の時間的推移（temporal profile）、発症様式からの病変の性質の推定法について
5. 緊急性を要する疾患の把握、占拠性病変の意義と対処について
6. 最終的な臨床診断と鑑別診断について
7. 疾患への鍼灸治療や理学療法の適否の判断について

**【自己学習】** 指定されたテーマや抄読する論文についてよく予習しておくこと。

**【履修上の注意】** 本研究の遂行には内科的、特に内科学の知識を十分に持っていることが望ましい。また、文献検索では英文論文の熟読が必須であり、成績の発表、論文作成も英文で行うことが研究者としての基本姿勢であるため、相応の英語力を養っておくこと。

**【試験・成績評価】** 各講義において、レポートや出席状況、講義への取り組み姿勢や理解度により、総合的に評価する。

---

◆ テキスト 文献検索による最新の論文

◆ 参考図書 講義内容に応じて、その都度指定する。

---

選択 前期・2単位 (演習)

**【目的】** 内科疾患、ならびに神経疾患に対する三段階診断 (3-steps diagnosis) により、実際の症例報告から患者の訴える症状の病変が、どこにあり、どのような性質のものか推論・把握し、治療手技の適否を、文献検索など evidence-based な根拠に基づいて判断できるよう指導する。また、鍼灸や理学療法などにおける物理学的刺激に対する生体の反応を、指尖脈波、体表温度、脳波、筋電図など生理学的パラメーターやアクティノグラフィーによる日常の活動量として継続的に記録し、その時系列データの収集・解析方法を学び、病態を客観的に評価できる基礎能力を養成する。代替・補完医療や伝統医学における診断・治療手技を科学化し、日常の治療方針等に将来活かせるよう指導する。

**【到達目標】** 各種疾患の病態を的確に理解する総合的な知識を持った医療人の養成を目的とする。

**【授業計画】**

1. 症例を提示して三段階診断法のプロセスを用い実践的に演習する。
2. 鍼灸治療や理学療法における患者へのアプローチの仕方を、内科学、神経学的な立場から考える基礎を習得する。
3. それらの診断プロセスを客観的に評価できるよう、測定機器の原理や操作方法について指導する。

**【自己学習】** 指定されたテーマや抄読する論文についてよく予習しておくこと。

**【履修上の注意】** 本研究の遂行には内科的、特に内科学の知識を十分に持っていることが望ましい。また、文献検索では英文論文の熟読が必須であり、成績の発表、論文作成も英文で行うことが研究者としての基本姿勢であるため、相応の英語力を養っておくこと。

**【試験・成績評価】** 演習への取り組み姿勢や理解度により評価する。

---

◆ テキスト 文献検索による最新の論文

◆ 参考図書 講義内容に応じて、その都度指定する。

---

**【目的】** ひとの高次脳神経のふるまいを扱う医学の領域は、主に精神現象の病態を対象とし、他の身体医学の諸分野と臨床医学を二分する重要な分野である。身体医学が、主に客観的に把握可能な身体面の現象を扱うのに対し、精神現象を扱う精神医学は、その症状の把握の仕方、疾患概念、診断・治療方法など患者に対するアプローチが異なる。さらに心身医学は精神の働きである心と身体の相互の成り立ちを双方向性にとらえる包括的臨床医学の基礎をなす分野である。心身医学的立場では、神経・内分泌系や免疫系などのストレスに対するダイナミックな応答として、社会環境を基盤とした心身関連の側面から病態をとらえることができる。

**【到達目標】** こうした心身医学および精神医学的立場から、個々の心身症や精神疾患の病態に対する理解を深め、様々な疾患の包括的・全人的なとらえ方を学習し、その知識を人間の心身の営みの深い理解に活用できることが目標である。

- 【授業計画】**
- A. 精神の病気を扱う医学
    - 1. 精神医学の捉え方
    - 2. 精神疾患の診断と検査
  - B. 精神症状とその発現
    - 3. 抑うつ
    - 4. 幻覚・妄想
    - 5. 不安・強迫・転換・解離、身体化
  - C. 身体に起因する精神障害
    - 6. 内科疾患等による精神障害
    - 7. 脳の疾患による精神障害 I
    - 8. 脳の疾患による精神障害 II
    - 9. 依存物質による精神障害
  - D. 健常範囲内の人の行動パターンと疾病による精神異常
    - 10. 性格を基盤とした行動パターンの偏り
    - 11. 疾病を基盤とした行動パターンの偏り
  - E. 12. 心身相関について
  - F. 13. 精神医学的側面を基盤とした研究の分野
  - G. 14. 精神と行動を調べる道具としての精神生理学的手法
  - H. 15. まとめ

**【自己学習】** 毎回、綿密な予習、復習を行うこと

**【履修上の注意】** 十分な準備を行うこと、原則として欠席は認めない

**【試験・成績評価】** 授業態度と最終レポートにより評価する（平常点（授業態度）20%、レポート80%）

◆ テキスト テキストは使用しない

◆ 参考図書 「現代臨床精神医学(改訂第11版)」大熊輝雄著（金原出版）、「心身医学標準テキスト第2版」久保千春 編集（医学書院）、「臨床脳波学 第5版」大熊輝雄著（医学書院） 他

郭 哲次 近藤 哲哉

配当年次

選択 前期・2単位（演習）

- 【目的】** 高次脳神経の働きを背景とした心身医学・精神医学の成り立ちを十分に理解したうえで、心理学的基盤が関与する身体生理・病理や精神生理・病理（特にうつ病など）を対象とした研究実践手段として、脳科学的・心理学的・精神生理学的手法（質問紙による各種心身評価や生理機能計測装置）の使用目的がわかり、研究遂行が出来る。
- 【到達目標】** エビデンスに基づく研究を行うために高次神経病態学に関する研究論文を検索・吟味する能力を養う。客観的視点に立った文献レビューを行いながら必要とされる研究課題を明らかにし、研究課題遂行のための最も有効なツールが何かを選択できることなど、自ら研究課題実践可能な素地をつくることを目標とする。
- 【授業計画】** 心理テスト（精神と行動の機能評価尺度）の実践や、脳波をはじめ電気生理学的手段等を用いて精神生理学的現象の客観的把握を試み、それぞれの手段の有用性を検討する。毎回、精神生理実験に関係した心身・精神医学的テーマを指定し、論文の抄読を行い毎回発表・討議を行う。
1. 文献検索の方法
  2. 文献検索の方法
  3. 神経心理的検査法 1
  4. 神経心理的検査法 2
  5. 精神生理学的検査法 1
  6. 精神生理学的検査法 2
  7. 高次神経病態学文献レビュー（課題の探索）
  8. 高次神経病態学文献レビュー（課題の探索）
  9. 高次神経病態学文献レビュー（課題の探索）
  10. 模擬研究課題の決定
  11. 模擬研究課題実施
  12. 高次神経病態学文献レビュー（結果の検討）
  13. 高次神経病態学文献レビュー（結果の検討）
  14. 発表と討議
  15. 発表と討議
- 【自己学習】** 毎回、自ら行った文献検索をもとに、批判的な眼で文献抄読を行い考えること  
授業終了ごとに、確認された事項を復習すること
- 【履修上の注意】** 十分な準備を行うこと、原則として欠席は認めない
- 【試験・成績評価】** 授業態度と模擬研究課題に関する最終レポートにより評価する（平常点（授業態度）20%、レポート80%）なお、平常点は発表の内容・方法、出席、学習に対する態度、授業中の発言を総合評価する。

◆ テキスト テキストはない

◆ 参考図書 随時紹介する